

# (1) 伝統的なぎじゅつを生かしているまち

## ① だるまづくりがさかんな<sup>しらかわし</sup>白河市



① <sup>しらかわ</sup>白河だるま市の様子

**つかむ**

写真や資料<sup>しりょう</sup>から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。



### だるま市<sup>いち</sup>が開かれる「白河市」

はなさんたちは、毎年2月に白河市で行われる「だるま市」の写真や資料<sup>しりょう</sup>を見て、気づいたことについて話し合いました。



「すごい人だね。だるま市には、何人ぐらいの人が来るのかな。」



「福島県内だけでなく、県外からも人が集まり、毎年<sup>やく</sup>約15万人が白河市に来るそうだよ。」



「1902（明治35）年には、だるま市の記事が新聞にのっていたそうよ。今からおよそ100年以上<sup>いじょう</sup>前から、もうだるまを売っていたなんてすごいね。」



「でも白河市では、どうしてだるまづくりがさかんなのかな。」

#### 白河だるま市

毎年2月11日に開催<sup>かいさい</sup>される白河だるま市は、天神町・<sup>てんじんまち</sup>中町・<sup>なかもとまち</sup>本町の3町が会場となります。旧奥州街道沿い約1.5kmに、約500もの露店<sup>ろてん</sup>が立ち並び、縁起物<sup>えんぎもの</sup>の白河だるまなどを買い求めて約15万人の人々がおとずれます。

（「白河歴史の手引き『れきしら』入門編」より作成）

年	主なできごと
1823 (文政6)	この年の横町絵図に、白河だるま総本舗（渡辺だるま店）の先祖の住居・作業所がある位置に「瓦作金七」の名前が確認できることから、この人物が白河だるまと大きく関わったと考えられる。
1902 (明治35)	白河の市でだるまを売るとい記事が当時の新聞にのった。
1974 (昭和49)	白河だるま市が現在と同じ建国記念の日の2月11日に開催されるようになった。
2011 (平成23)	東日本大震災が起こる。しかし、多くの困難を乗り越え、それぞれのだるま工房は、だるまづくりを続けた。
2020 (令和2)	白河アートだるまの取り組みが始まる。

### 伝統的な産業



地いきの自然や古くから伝わるぎじゅつを生かして長く受けつがれてきた産業のことです。地いきの人々のくらしを支えています。伝統的な産業としてつくられるものは特産品として親しまれ、県内外に愛好する人たちがいます。

## ② 白河だるま・白河だるま市に関する年表



「だるまは、どのようにつくられているのかな。」



「白河市には、だるまづくりをしやすい材料や条件があるのかな。」



「東日本大震災は、だるまづくりにどのような影響をあたえたのかな。」



「だるまづくりを支えている人たちは、どのようなことをしているのかな。」

はなさんたちは、話し合ったことをもとに、学習問題をつくりました。

### 学習問題

白河市では、白河だるまをどのように守り、  
つた  
伝えているのでしょうか。

#### 【調べること】

- 白河市でだるまづくりがさかんになったわけ。
- 白河だるまを守り、伝える白河市の人々の取り組み。

#### 【調べ方】

- パンフレットやインターネットを使って調べる。
- 市役所で働く人や白河だるまをつくっている人にインタビューをしたり、メールや手紙でたずねたりする。

#### 【まとめ方】

- 白河市のだるまづくりを守り、伝える取り組みについて、4コマ  
シーエム  
CMにまとめる。

白河だるまが  
できるまで  
(伝統的な作り方)



① 張子 (紙はり)

どがた なたねあぶら  
土型に菜種油を塗り、  
厚めにすいた紙をのり  
で張っていきます。



② 型抜き

乾燥が終わった後、背  
から小刀を入れて土型  
から張子をはがします。



③ 背張

たんざくじょう  
短冊状に切った背張紙  
をのせ、切り込みの目  
張をします。



④ 底付

昔は粘土をこね、モチ  
で底を接着します。

調べる

白河だるまは、どのよ  
うにしてつくられている  
のでしょうか。



① だるまの土型



② だるまの顔書きをして  
いるところ

白河だるまをつくる

はなさんたちは、白河だるまがどのようにつ  
くられているか調べるために、だるまづくりの  
工房を見学させていただきました。

白河だるまは、土型に厚めにすいた紙をはっ  
て形をつくっていきます。その紙をつくる時  
には、きれいな水を使います。きれいな水がほう  
ふにある白河市は、その条件に合っています。



「だるまづくりに、きれいな水が大切  
なんて知らなかったね。」



「だるまづくりは、厚めにすいた紙の  
用意、張子、背張、底付、彩色、顔書  
きと分業で行っているそうだよ。」



「一つずつ手作業で、ていねいに仕上  
げているんだね。」



「白河だるまは、ほかの地いきでつく  
られるだるまと何がちがうのかな。」



### ⑤ 彩色と乾燥

お湯、にかわを練ったもので下塗りをします。屋外で1~2日間自然乾燥させ、その後、赤色塗りを行い、乾燥させます。



### ⑥ 顔書き

目や口、ひげなどの表情を描き入れていきます。



### ⑦ 出荷

一つひとつナイロン袋に入れて保護し、段ボールに入れて出荷します。

## ③ 白河だるまができるまでの工程こうてい（「白河歴史の手引き『れきしら』入門編」より）

### さがわ せいぞうじょ 佐川だるま製造所の佐川さんの話



さがわ せいぞうじょ  
佐川だるま製造所

だるまづくりでたいへんなことは、色をつけてかわかす必要ひつようがあるので、  
天気あまに左右されやすいことです。白河だるまの特ちょうである「鶴亀松竹梅」つるかめしょうちくばい、「土型どがたを使うこと」つる、「たおしても起き上がるようにつくること」を大切にひとつひとつ手づくりしています。



「顔書きは、筆を使って一気にかいていくんだね。」



「だるまの顔に意味があるなんて、初めて知ったよ。」



「かく順番じゅんばんもあってむずかしそうだけど、やってみたいな。」

### 白河だるまの特ちょう

白河だるまは、白河藩主・松平定信しらかわはんしゅ まつだいらさだのぶのお抱え絵師であった谷文晁かか えし たにぶんちやうがだるまの顔をかいて手本あたに与えたことなどの話が伝わっています。

顔全体がふっくらとしており、おだやかな顔をしているのが特ちょうです。まゆは「鶴」、ひげは「亀」、びんりやうがわ（顔の両側の耳ぎわにあるかみの毛）は「梅」や「松」、あごひげは「竹」や「松」に見立てられています。かつては目を入れて売られていましたが、現在は、ねがいごとがかなうと目を入れる「目なしだるま」になりました。



白河だるま総本舗

さがわ せいぞうじょ  
佐川だるま製造所

（「わたしたちのしらかわ」しらかわ、「白河歴史の手引き『れきしら』入門編」より作成）



① 東日本大震災後の販売の広がり（東京都台東区浅草）

## 調べる

白河だるまの伝統を守るために、どのような取り組みをしてきたのでしょうか。



② だるまの絵付け体験

### 東日本大震災

2011（平成23）年3月11日に三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0を記録した国内観測史上最大級の地震のこと。白河市でも、震度6強を記録し、土砂くずれがおきるなど大きな被害を受けました。

## だるまづくりを守り、伝える

近年では、だるまを家にかざる人の数がへって  
います。白河市内の二つのだるま工房では、これ  
までだるまの絵付け体験を行い、多くの人に  
興味を持ってもらうことで、この産業を守り、伝え  
ようと努めてきました。

そうした中、2011（平成23）年3月11日に東  
日本大震災が起きました。白河市は地震による大  
きな被害を受けましたが、多くの困難を乗り越  
え、それぞれのだるま工房は、だるまづくりを続  
けました。

その後、さまざまな人々が、東北地方の伝統的  
な産業を助けようと、協力して動き出しまし  
た。白河だるまも、多くの人に知ってもらう機会  
を増やすためのさまざまな支援を受けました。

はなさんたちは、市内にあるもう一つの<sup>こうぼう</sup>だるま工房でも、話を聞くことにしました。

## そうほんぼ わたなべ 白河だるま総本舗の渡邊さんの話

<sup>しんさいご</sup>震災後、白河だるまを「より多くの人に知ってもらいたい、好きになってもらいたい。」という思いから「だるまランド」をつくりました。だるまランドは、白河だるまを「見て、学んで、楽しむ」ことができる場所です。お正月やだるま市だけでなく、だるまを身近に感じてもらうことで、だるまづくりの伝統を守り、伝えていくようにしていきたいです。そして、だるまづくりの伝統的な産業を「<sup>ゆめ</sup>夢のある産業」にしていきたいです。



③ これまでになかった新しいデザインの白河だるま



④ おおぼりそうまやき <sup>きょうりよく</sup>大堀相馬焼と協力して作った商品



⑤ 白河だるまを「見て、学んで、楽しむ」ことができる<sup>せつ</sup>施設



「白河だるまづくりの伝統を守りながら、多くの人に知ってもらうために、新しいことにも挑戦しているんだね。」



「白河市では、白河だるまを守り、広めるためにどのような取り組みをしているのか市役所の人に聞いてみようよ。」



白河だるま<sup>そうほんぼ</sup>総本舗  
だるまランド

## 調べる

白河市では、白河だるまを広めるために、どのような取り組みをしているのでしょうか。



① アートだるまを募集  
するチラシ



② 市の芸術祭に出品  
されたアートだるま

## 白河だるまを広めるために

白河市では、白河だるまやだるま市を盛り上げるために、市が行うイベントのお知らせをしたり、白河まつり振興会のホームページや観光パンフレットなどで紹介したりしています。近年は、自分が考えたデザインのだるまをつかって市の芸術祭に参加する「白河アートだるま」の取り組みも行われています。

## 白河市役所の鈴木さんの話



白河市は、地いきのれきしや自然を生かした文化芸術がゆたかなまちづくりを目指しています。そこで、だるま市だけでなく、芸術祭などのアートイベント「白河アートだるま」を始めました。この「アートだるま」は2020(令和2)年にスタートし、これまで2回行いました。この取り組みをきっかけにして、白河だるまというすばらしい伝統的な産業を守り、より多くの人に白河市を知ってもらい、おとずれてほしいです。

## まとめる

だるまづくりがさかんな白河市について、調べたことをもとに、4コマCM<sup>シーエム</sup>をつくりましょう。

## 学習問題

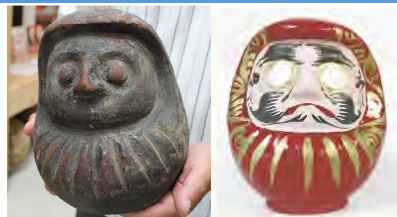
白河市では、白河だるまをどのように守り、<sup>つた</sup>伝えているのでしょうか。

学習問題をもう一度かくにんしよう！



はなさんたちは、これまでの学習をふり返り、白河だるまを守り、<sup>つた</sup>伝える取り組みについて、グループで話し合いました。そして、白河市の特色<sup>とくしょく</sup>について伝えるものを決めて、4コマCM<sup>シーエム</sup>をつくることにしました。

### 1 つくり続けて 200年



白河だるまは、<sup>わたなべ</sup>渡辺だるま店の先祖<sup>せんぞ</sup>（<sup>かわらさくきんしち</sup>瓦作金七）が大きく<sup>かか</sup>関わり、約200年前に始まったとされています。



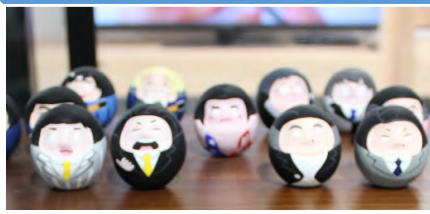
### 2 てんとうき 伝統的なぎじゅつ



だるまの顔は一つ一つ筆でかきます。このぎじゅつがすごいです。



### 3 新しい取り組み



伝統を守りながらも新しいだるまづくりを進めています。



### 4 白河市とともに



白河市では、だるまを広めるための新しい取り組みを始めています。



### 【4コマCMのつくり方】

- 1 グループで話し合い、白河市の特色<sup>とくしょく</sup>を伝える<sup>ないよう</sup>内容を四つ選ぶ。
- 2 1コマずつ分たんを決める。
- 3 画用紙に絵や文字、写真などでまとめる。（タブレットにまとめることもできる）
- 4 短い言葉でタイトルをつける。
- 5 つくったものをグループでつなげて、みんなで発表し合う。



白河市公式  
チャンネル